

2025年(令和7年)1月オホーツク管内倒産集計

令和7年2月5日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

1月の倒産発生は2年連続

昨年8月以来5か月ぶりの倒産発生

■前月比	件数	1件増加(令和6年12月	0件)
	負債総額	50,000万円増加(0円)
		〃	
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(令和6年1月	1件)
	負債総額	44,858万円増加(5,142万円)
		〃	

令和7年1月の発生状況

令和7年1月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生1件、負債総額50,000万円。発生企業は佐呂間町の建設資材卸売業者。90年超の業歴を誇る老舗事業者で昭和50年代には2億円台の売上を計上していたが、近年は公共工事縮減の影響等でじり貧を辿り年商は2,000万円前後まで減少。収益面も低調で資金繰りも限界に達したことから令和4年8月に事業を停止。令和6年12月に破産手続き開始決定を受け表面化した。倒産発生は昨年8月以来実に5か月ぶり。新年早々の倒産発生で不穏な空気が漂う1年のスタートとなった。

過去5年間と今年1月の発生推移

過去5年間の1月の発生推移は【右・表】の通りで、発生件数はいずれもゼロ件または1件で推移しており、平均発生件数は0.4件。同負債総額は小規模倒産が中心だったため、2,968万円となっている。

これまでの推移から1月は比較的倒産の少ない月といえるが、今年は2年連続で発生が見られた。

過去5年間と今年1月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2020年	1件	9,700万円
2021年	0件	0円
2022年	0件	0円
2023年	0件	0円
2024年	1件	5,142万円
2025年	1件	50,000万円

今後の見通しと問題点

国内全体では、インバウンド需要に牽引される観光産業や個人消費など一部で活発な動きが見られる一方、依然として底の見えないエネルギーや原材料価格の高騰、深刻な人手不足、人件費の上昇など企業活動におけるマイナス要素の根は深いようだ。さらに、各金融機関において金利引き上げの流れがジワジワと進行しており、中小事業者からはその影響を懸念する声も多く聞こえてくる。

昨年のオホーツク管内は春先から夏場にかけて倒産企業増加の兆候が見られたものの、9月以降は小康状態を保ち、落ち着いた状況の中で新年を迎えた。しかし、1月に入ると間もなく佐呂間町内の老舗建材業者の破綻が表面化（破産開始決定は12月）。不穏な空気が漂う1年の幕開けとなった。コロナの後遺症もようやく薄れつつある中、各事業者は経済活動の活発化に向けて様々な事業展開で売上の底上げに奔走するものの、物価高騰や深刻な人手不足など取り巻く環境は依然として厳しく、地方の中小企業にとってはまだまだ先行き不透明感が拭えない状況が続く見通しだ。

